

安全安心な養殖魚の生産技術研究

(予算区分 県単 研究期間 平成19年～20年度)

担当：富士養鱒場

【研究の背景とねらい】

食の安全性に対する不安が高まっていることから、消費者に軸足をおいた安全安心な養殖魚の生産流通体制の構築が求められています。そこで、より安全・安心な養殖魚の生産を促進するため、薬剤を使用しない防疫技術の開発やニジマスの付加価値を高める機能性物質の探索を行うとともに、生産から流通の過程までの手法を再考し、新たな技術を取り入れることでニジマスの食品としての品質を向上させる技術の確立を図ります。

【これまでに得られた成果】

- ・ セリ科植物の抽出物を添加した配合飼料をニジマスに投与し、体内の不要物質の取込み阻害および排出促進効果を調べたところ、エトキシキンの排出促進効果が認められました。
- ・ ニジマスの出荷時の品質について実態調査しました。
- ・ 大型魚生産に有利な晩熟系（4年成熟系）ニジマスの形質固定化のため、通常の成熟年齢である満3歳に達した晩熟系群から未成熟魚を選抜しました。
- ・ IHN 耐病性クローンについて詳細な形質評価を行い、耐病性の発現機構を探索しました。



セリ科植物抽出物と添加した飼料。ニジマス体内の様々な不要物質の排出促進効果が期待されています。



3年で未成熟のニジマス。バイオテクノロジーを使わず、大型で肉質のいいニジマスの作出が期待されています。

【期待される成果】

- ・ 天然防疫素材の開発や有害微量成分の取込み阻害および排泄促進、鮮度の向上等により、安全で高品質な養殖魚を生産することにより、付加価値が向上し販売促進効果が期待されます。
- ・ 晩熟、耐病等のニジマスの有用形質を固定化することで、生産効率の向上や医薬品の使用抑制が図られます。

【今後の計画】

細目課題	18年度	19年度	20年度
機能性素材等を利用した養魚飼料研究			
食品としての品質を向上させる養殖技術の開発研究			
優良形質保有群の作出と特性評価に関する研究			
クローン群の特性研究			

(作成 平成20年4月)